

グループディスカッション



宮崎さんの特別講演会には、県内各地の教育、医療看護関係者ら31人が参加。講演後は、参加者が小グループに分かれ、先生と生徒同士のSNS利用をめぐる事例を基にディスカッションもしました。アンケートでは「居場所が大切であることを実感した。そのためには、認め、理解し合える環境を大切にしたいと思った」「情報モラルの取り組みをいくらやってもトラブルは毎年起こり、この先どうしたら良いのか考えていたところにぴったりのテーマで、とても勉強になりました」「『人生を幸せにするのはつながり』という言葉が胸に残った」「もっと学校でこういう講演がされればいいのに」などの感想や意見が寄せられました。

参加者の感想

「人生を幸せにするものはつながり」という言葉、「自立は依存先を増やすこと、希望は絶望を分かち合うこと」という言葉が胸に残った。さみしさを感じて、なにかに強く依存してしまっているということなら、そのさみしさを少しでも減らせるような関わりができたらいいなと思いました。

「質のいいつながり」という言葉が印象に残りました。SNSの問題にどう対応するかでなく、その根っこにあるものに目を向けることの大切さに改めて気づかされました。

様々な職種、年代の方が集まっていて、考えもしなかった視点の意見が聞けて楽しかったです。

会員随時募集中！

会員の皆様は、2018年度の会費納入をよろしくお願いいたします。

入会案内

いつでも、どなたでも入会できます。

入会申込書にご記入の上、メールにファイルを添付して下記のアドレスへ送信してください。

入会申込書送付先 → yhukusim@iwate-pu.ac.jp

入会申込書はこちらからダウンロードできます。

<http://www.geocities.jp/iwatesisyunki/index.html>

いわて思春期研究会

検索

※FAXや郵送でも受け付けます。事務局宛にお送りください。

いわて思春期研究会ニュースレター

第9号 2019年1月発行

発行元：〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52 岩手県立大学看護学部

母子看護学講座内「いわて思春期研究会」事務局 FAX：019-694-3232

作成者：岩手思春期研究会広報担当理事 米澤慎悦 黒田大介 住吉美保 亀山成美

2018年度いわて思春期研究会第2回研修会が開かれます

日時：2019年2月16日（土） 14時～16時30分

場所：いわて県民情報交流センター アイーナ812

岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号 TEL 019-606-1717

会費：会員無料 非会員 500円

2018年度第2回研修会が上記の日程で開かれます。会員の皆様には案内が届いていると思いますが、再度のご案内です。お誘いあわせの上、たくさんのご参加をお待ちしております。研修会の内容は以下の通りです。

<プログラム>

14:00-14:05 開会 挨拶（小林高会長）

14:05-15:35 講演

テーマ「岩手県における児童虐待の実態」

講師 岩手県福祉総合相談センター 児童相談課 課長 大向 幸男氏

15:40-16:30 自由討論・まとめ

「児童虐待の実態から思春期からの取り組みはどうか」

コメンテーター 岩手県福祉総合相談センター 児童相談課 課長 大向 幸男氏





質のいいつながりを・・・

2017年度第2回、2018年度第1回いわて思春期研究会の報告



今や、小学生でもスマホを持っている時代。会員制交流サイト（SNS）が急速に普及する中、最近トラブルが相次いでいます。SNSがきっかけで性犯罪の被害に遭う子どもは年々増加しており、SNSで知り合った相手に自分の裸を撮影して送るよう強要される「自撮り被害」も深刻化しています。

とりわけ、社会に衝撃を与えたのが、神奈川県座間市のアパートで9人の切断遺体が見つかった事件でした。「死にたい」といったツイッターのつぶやきが悪用され、女子高生らが犠牲になりました。

事件を受け、政府は「第4次青少年インターネット環境整備基本計画」を策定。民間によるSNSへの自殺関連の書き込み監視強化、小学校低学年からの情報教育の充実なども打ち出しました。

ただ、根本的な疑問は残ります。なぜ女子高生らは、ツイッターの誘いで見ず知らずの男の元に行ってしまったのか？ さらに言えば、これまでもネットトラブルを防止するため、さまざまな対策が取り組まれてきましたが、歯止めがかからないのはなぜか？ ネットで簡単につながるのに、なぜ、人々は孤独なのか？

こうした疑問に鋭く答えてくれたのが、いわて思春期研究会の2018年度特別講演会（2018年7月14日、盛岡市・県医師会館）での、宮崎豊久さん（インターネットポリシースペシャリスト、日本思春期学会理事）の講演と、同会2017年度第2回研修会（2018年3月18日、盛岡市・アイーナ）での佐々木亮平さん（岩手医大公衆衛生学講座助教、保健師）「男の役割・父親の役割とは？」の講演でした。

お二人の講演に通じるテーマは「質のいいつながり」でした。
（広報部：黒田）

2018年度いわて思春期研究会特別講演会

（2018年7月14日、盛岡市・県医師会館）

思春期のSNS利用と性被害

～情報モラル教育だけでは防げない

思春期のインターネットトラブル～

講師：宮崎 豊久さん

（日本思春期学会理事、インターネットポリシースペシャリスト）



宮崎さんの演題は、ずばり「思春期のSNS利用と性被害—情報モラル教育だけでは防げない思春期のインターネットトラブル」。宮崎さんは「フィルタリングの普及活動や情報モラル教育は、トラブルの早期発見・早期対応の取り組みにとどまることが多く、根本的解決には結びつかない」と指摘しました。なぜなら、問題の根底にあるのが「社会に蔓延するコミュニケーション不足、児童の居場所（心のよりどころ、安心できる場所）の不足」だからです。

ネットとリアルとの関係については「ネットは社会性を身につけられないうちでもコミュニケーションができてしまう（できている気になれる）」という怖さがある。居場所がないと感じている人同士がネットをきっかけに出会い、リアルなコミュニケーションに発展した場合、トラブルが起きてしまいかねない」と指摘しました。座間事件の深層を考える上でも、重要な視座と思います。

社会性には、いろいろあります。他人との接触をできる限り避ける「内向的な社会性」ではなく、誰かを過度に非難したり攻撃したりする「外交的な社会性」でもなく、意見の違いを認め合う「双方向の社会性」を身につけるには、どうしたらいいのでしょうか。宮崎さんは、ハーバード大学が長年取り組んでいる「幸福についての研究」で、人生を幸せにするのは家族や友人らとの「つながり」という結果が浮かび上がったことなど、数々の事例を交えつつ、「子どもの居場所づくりや、コミュニケーション力の育成に力を入れることで、『質のいいつながり』をつくっていきましょう」と呼びかけました。

2017年度いわて思春期研究会第2回研修会

（2018年3月18日、盛岡市・アイーナ）

男の役割・父親の役割とは？



講師：佐々木 亮平さん

（岩手医科大学衛生学
公衆衛生学講座
助教、保健師）

佐々木亮平さん（岩手医大公衆衛生学講座助教、保健師）は、「男の役割・父親の役割とは？」をテーマに講演し、21人が参加しました。宮崎さんが提唱した「質のいいつながりづくりの大切さ」にも通じる、ヒントが満載の楽しい内容でした。

まずは、亮平さんが中高生を対象に行っている性教育や保健講話の話。「未来型コンドームの達人がいるお店、開店中！」「カッコいい男になる3つのポイント！」など、中高生に「何か、楽しそう」と感じさせる講話のタイトルの工夫、「今日は話して良さそうだな」という会場の雰囲気づくりの大切さに始まり、自らの中高生時代、初恋、子育てなど、しっかり自己開示して中高生の心を掴んだ上で、同じ目線で恋愛、性、リアルな体験の大切さなどについて話し合う。まさに、亮平さんならではの、質のいい大人と子どもの関係づくりの実践例でした。

亮平さんは、東日本大震災発災5日目から陸前高田市に入り、岩室紳也医師（横浜市）と共に、支援に携わりました。今なお定期的に訪問し、地域コミュニティの再構築に向け、住民同士が積極的に声を掛け合い、人と人がつながり、居場所づくりの輪を広げていく「はまってけらいん、かだってけらいん（はまかだ）運動」の旗振り役として奮闘しています。

講演では、陸前高田と共に歩んできた自らの日々を振り返り、つながり続けることの大切さを強調。「絆という漢字は、『きずな』（つながり、むすびつき）」という読み方だけではなく『ほだし』（手かせ、足かせ、迷惑、束縛）」という読み方もあります。相反するから『お互い様』なんです」という指摘は、宮崎さんの言う「双方向の社会性」にも通じるのではないのでしょうか。

亮平さんは「関係性の喪失が社会全体の課題となっています。情報だけがあっても、教育をどんなに充実させても、対話や関係性（コミュニケーション）がなければ、子育ても復興も解決できません。みんなで語りましょう！」と結びました。